



# 40歳以上は要注意

## — 緑内障 —

指導：日本赤十字社医療センター 院長 増田 寛次郎

企画：  
日本医師会

No. 155

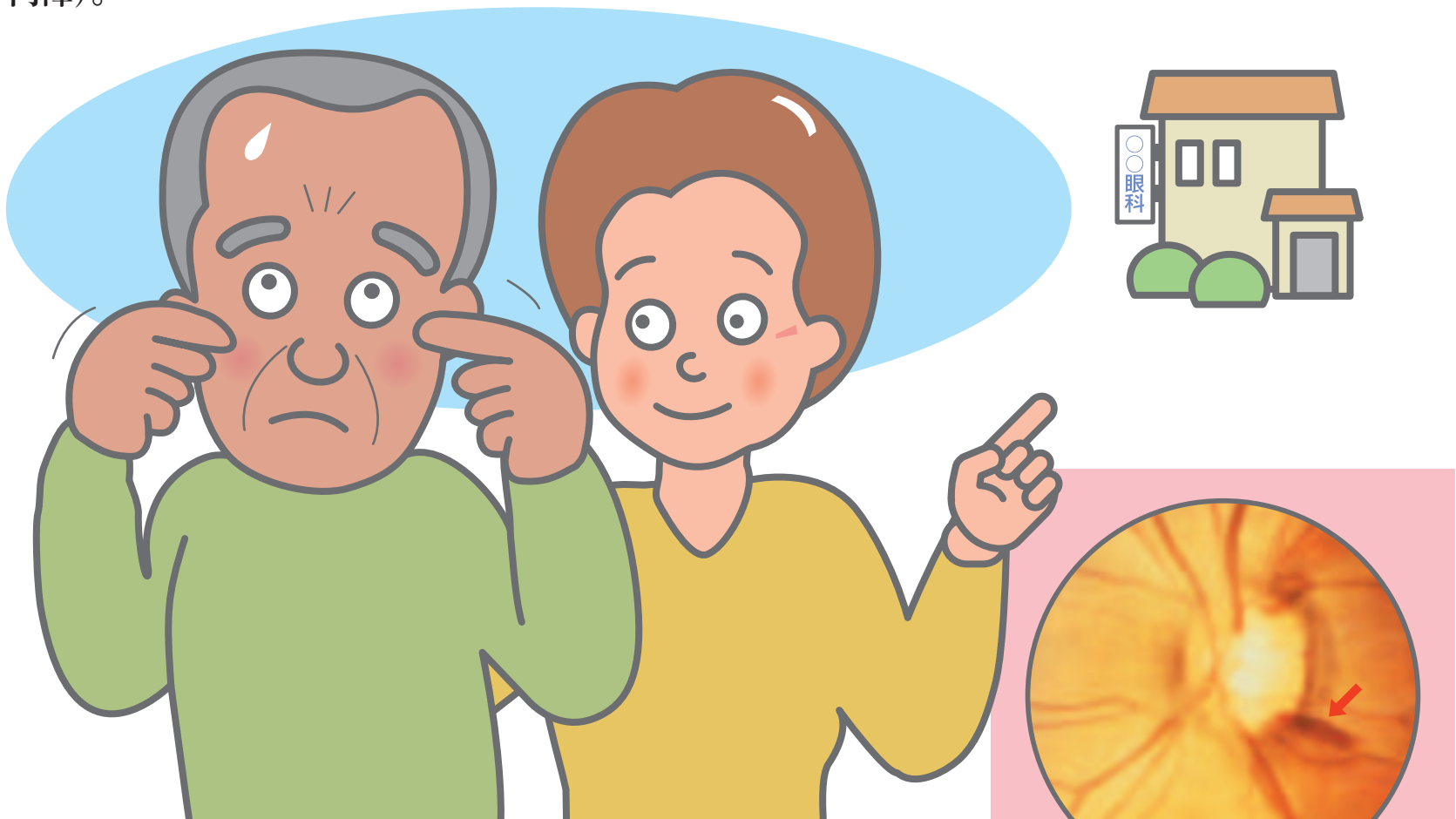
### 眼圧だけではわかりません

緑内障は中高年に多くみられる目の病気で、40歳以上の人の17人に1人が罹患しているといわれています。視神経が障害を受けることにより、視野が欠けたり、狭くなったりし、放っておくと失明に至ります。原因として眼圧（目の硬さ）の上昇が知られていましたが、最近では、眼圧が正常レベルであっても緑内障と同じ症状が起こることがわかってきました（正常眼圧緑内障）。

### 気づかないうちに進行しています

緑内障の恐さの一つは自覚症状に乏しいことです。これは、片方の目に障害が生じて、もう片方の目で視野を補ってしまうため、視野の異常に気づきにくいからです。また、進行が遅いことも気づきにくい要因の一つです。

緑内障かどうかを調べるには、眼科医による眼圧測定や眼底検査、視野検査などが必要です。



### 進行を止めるには

一度障害を受けた視神経は、元に戻ることはありません。ですから、緑内障では早期発見、早期治療が何より大切です。早い段階で発見できれば、薬やレーザー治療、手術によって進行を止めることができます。

40歳を過ぎたら眼科医による目の定期検査を受けましょう。



緑内障の眼底写真

乳頭（視神経が集まる場所）に出血がみられ（赤色矢印）、視神経線維が損傷している。

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。